

次期東三河振興ビジョン（仮称）中間案に対する御意見

No.	意見	意見に対する考え方
1	<p>私は奥三河を深く愛する者です。</p> <p>奥三河は、自然が豊かでありながら都会とのアクセスも悪くなく、また花祭りなどの伝統文化、山家三方衆ゆかりの地や中馬街道などの歴史遺産に富み、全国から人が集まっても不思議ではない素晴らしい地域であると思っております。</p> <p>新城市・設楽町・東栄町・豊根村の奥三河4市町村は、すべて合わせても人口は5万2千人ほどにしかありません。これは愛知県全体のわずか0.7%にすぎません。ところが面積の合計は一千k㎡に達し、これは愛知県全体の20%を占めます。子どもたちの教育にかかわる予算も、人口比だけではなく面積についても多少の考慮をいただけないものかと愚痴を述べる次第です。</p> <p>さて今回の案をみて大きく失望したことがあります。それはこの地域の教育について、未来的・発展的な施策が何もないように見受けられるからです</p> <p>十数年ほど前には本郷高校（閉校時の名称は新城東高校本郷校舎）と鳳来寺高校が閉校しました。本郷高校がなくなったことにより、東栄町と豊根村の生徒たちは、他地域の高校にバスやマイカー送迎での遠距離通学をおこなうか、下宿を余儀なくされています。</p> <p>また小中学校の統廃合も加速的に推進され、1955年の町発足時に12校あった小学校は1990年には7校に、そして2010年には1校のみとなってしまいました。中学校に至っては1975年から1校に統合されており、中学生で下宿生活を送る子どもたちも多くおります。</p> <p>さて統廃合は順調に進んでいるようですが、それに伴う教育の質は確保されているのでしょうか。もし東三河地区特、に奥三河を活性化させるのであれば、そこに住んで子弟に十分な教育を受けさせられることが担保されなければ難しいのではないのでしょうか。それが今回の案からは見えてきません。</p> <p>私は提案します。</p> <p>島根県の隠岐の島にある隠岐島前高校が実践している「しまね留学」という教育施策を参考とし、都会からの入学者を積極的に受入れるような施策を行なうべきかと思えます。</p> <p>隠岐島前高校は少子化による隠岐島前三町村の中学卒業生減少による廃校の危機に直面する中、「島留学」をキャッチコピーとして平成22年度から全国募集枠を設定して県外生受け入れを開始し、いまでは毎年コンスタントに数十名の島外出身者が集まる人気校となっています。スポーツも全国区レベルの強豪校として名を馳せるようになりました。</p> <p>このような施設を奥三河に作り、豊かな自然や歴史・文化遺産を生かして、都会生活になじめないような子どもたちを受け入れてはいかがでしょうか。例えば設楽町にある田口高校には、整備された合宿所もあるので実現性は高いのではないかと思います。</p> <p>同じ愛知県内、三河湾に浮かぶ佐久島でもこのような取り組みを行なっております。西尾市の本土側に居住しながら、通学先を佐久島の中学校にすることができるのです。「しおかぜ通学」というそうです。またお隣の長野県下伊那郡阿智村では、小中学生を対象にした「山村留学」という事業を行なっております。年間単位のタームで阿智村で生活し、村内の小中学校で学ぶのです。これらの施策を奥三河地域でも採り入れられてはいかがでしょうか。</p> <p>全国には学校生活になじめず不登校になる児童・生徒や、都会の環境にそぐわないがために通学に困難をきたす子どもたちが大勢いるとききます。そのような子どもたちを全国から呼び寄せて、佐久島の「しおかぜ通学」や長野県阿智村の「山村留学」、また隠岐島前高校の「しまね留学」のようなことを行なえば、奥三河は間違いなく活性化すると思えます。そして親世代の人たちのアイターンも期待できます。地域に新しい住人が増えることは、地域の活性化に直結することになります。</p> <p>ほかにもアイデアは拡がります。高校生や大学生で地域外で学んでいる人達、彼らは地域に伝わる伝統文化・花祭りの継承を自分たちの世代の責務ととらえ、次代の担い手とならんことを願いながらも、教育環境の都合によって思うどおりにならないことに</p>	<p>ビジョンにおける主要な取組として「校種を超えたつながりのある連携型中高一貫教育や、保護者・地域住民等と連携した学校運営であるコミュニティ・スクール設置の推進」を記載しており、山間地域における教育について、県立高等学校の魅力化や山間地ならではの教育環境の整備を進めてまいります。また、いただいた御意見は、関係機関と情報共有し、ビジョンの推進に取り組む際の参考にさせていただきます。</p>

No.	意見	意見に対する考え方
	<p>悩んでいるかと思えます。伝統文化継承地区出身者で他地域で学ぶ生徒・学生には、祭りの期間中における帰省を推奨しその間の単位取得を認める、インターンシップ制度のようなものを、愛知県が音頭をとって県内の高校大学に薦めていただければいかがでしょうか。「ユネスコ世界文化遺産インターンシップ」というような名称を付けるのも一考かと思えます。</p> <p>いかがでしょうか。費用も多額なものにはならないはずで、子供が安心して居住できる環境であること。これが地域振興の必須条件であると思えます。それは豊かな自然や環境、生活の安全の加えて、安心して教育を受けられることこそが何より重要かと思うのです。</p>	
2	<p>渥美半島には、縦貫道路が国道42号線・国道259号線・豊橋渥美線と幹線道路が3本ありますが、横断道路はありません。国道259号線の渋滞緩和、渥美半島の利便性向上、現道は幅員が狭く擦れ違いが難しく又豊橋鉄道渥美線や紙田川があることから老津・杉山地区の移動改善のため、城下老津線の整備を東三河地域における主要な幹線道路に記載してください。</p>	<p>東三河振興ビジョン2030に記載している路線は、東三河地域の主要な幹線道路及び要望等に基づくもので整理しております。</p> <p>(一) 城下老津線につきましては、現在事業を進めており、引き続き整備推進してまいります。なお、いただいたご意見は、関係機関と情報共有させていただきます。</p>
3	<p>「リニア中央線の開通に伴い、東海道新幹線ではこだまやひかりが増便され、豊橋駅の利便性が向上し・・・」について</p> <p>ひかりやこだまの増便だけでは、利便性が向上するとは思えません。東京名古屋間のルートが新幹線のみである場合はその様に思えますが、スピード最優先のルートがリニアに変われば現在の新幹線の多数の利用者はリニアを利用する様になると思えます。奥三河の魅力である自然は、リニア中間駅である、長野県や岐阜県にも多くむしろ競合すると感じます。リニアが開通後、並行するルートの特性でスピード一番の役割を終え、スピード優先のお客は新幹線から離れて行くと考えられるのではないのでしょうか。リニアが新幹線と同等の料金設定になる様なので、間違いなく時間重視の新幹線利用客はリニア利用に流れると思えます。その結果新幹線で豊橋駅を利用、または通過する乗客は減少すると感じ、ひかりやこだまを増便したところで、運賃を値下げし、現在の在来線東海道線に近い料金設定にならないと難しいと思えます。そこからすると新たな来訪客を作り出す必要があると思えます。リニア開通後、新幹線の採算は悪化すると思われまます。JR東海としても、乗客が維持もしくは、増える施策を検討すると思われまます。そこで、現在全国的にあまり認知されていない愛知の全国区になる可能性のある魅力を再認知させる事が重要だと思えます。ただし、コストをかけては意味がありません。今あるモノを気づいていない人に今あるものを活用して訪問者を作り出せばコストは抑えられ現実的だと思えます。そこで蒲郡市内に新幹線の中間駅を県が主導で誘致建設してはどうでしょうか。すでに隣接の豊橋に駅がありますので、近すぎると言った反対意見はあると思えますが、停車本数が増加するだけで、利用客が増加しなければ意味がありません。豊橋は良いところだと思えますが、全国同様の街は多いのが実情です。東京、大阪間に高速鉄道敷設の採算性を考えるルートを計画した時、距離感と地形的に豊橋に駅を造ったということが現実的な様に思えます。その点、蒲郡は違う。奇跡的に沿線のそばに山、海があり、駅が出来れば海、山が眺望望むことが出来、下車した時から観光気分になれる。こんな立地感の駅は熱海から神戸間にはないと思えます。また蒲郡やその周辺には温泉が多いので、新幹線駅に近い温泉地で近隣に競合になる温泉はないと思われまます。新幹線でアクセス可能な温泉。熱海、有馬温泉の様な蒲郡温泉郷(周辺の温泉の総称)は全国区になるのではないのでしょうか。駅の場所としては三河大塚駅を三河安城の様に乗換え可能になれば市内、県内の他のスポットへのアクセスが良くなる良いと思えます。他にもラグーナテンボス、ヨットハーバー、海陽学園、IRではないが非日常蒲郡ボート、三河湾の海、蒲郡の山々がありどこにもありそうだが、全国区に躍り出る魅力的なコンテンツが多数あるので既に下地は揃っている様なモノだと思えます。新幹線でアクセスが良いから日帰りもあれば、回りきれないから滞在し二日目に繋がる拠点になりえると思う。「じゃあ行こうか！」ここを起点に奥三河に行けばと思うし、利用客が増加すれば、蒲郡の港を利用し三河湾の島々、伊良湖、師崎、伊勢神宮に船便が出せるかも知れません。課題は多いと思うが、国内のあちこちを見てきたことから可能性を感じます。市場が拡大すれば、雇用の創出にも繋がると思えます。観光地としての魅力に乏しい愛知県が、観光地として全国に名を広めるチャンスになると思えます。明るい愛知を期待します。</p>	<p>いただいたご意見は、関係機関と情報共有させていただきます。</p>

No.	意見	意見に対する考え方
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県を跨いだ広域的な人口交流、連携強化 <p>東三河は、静岡県浜松市と近いという地理的メリットがあります。静岡県浜松市は産業が盛んであり、人口が静岡県で最大の市であり、浜松との連携強化や交流人口の増加は、両県にとって非常に有意義だと思います。例えば愛知県が JR 東海に働きかけて、豊橋駅と浜松駅間はノンストップの快速の運行を働きかけるといったような動きがあると良いと思います。これにより、東西の交流人口がより拡大し、長い目で見て経済効果が生まれる事は確実だと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 豊かな自然の保全・再生 <p>これで必須なのは下水道の普及と、下水処理場の窒素やリンを取り除く高度処理化が未対応な下水処理場については、高度処理化への改修は必須だと思います。また合流式下水道の場合、大雨時に汚水が川に流出する問題の改善策が必要です。これにより、三河湾の水質改善を図る必要があると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中部国際空港へのアクセス改善 <p>アフターコロナに向けて、訪日観光客の東三河地域への誘致や、東三河にある企業の活性化の為にも、長期的に中部国際空港へのアクセス強化の検討は必要だと思います。</p> <p>以上、よろしくお願い致します。</p>	<p>いただいたご意見は、関係機関と情報共有させていただきます。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東三河北部医療圏におけるへき地医療拠点病院やへき地診療所等の医療体制の確保を目標にしています（22ページ）。ぜひ、北設地域の困難な状況を踏まえ、より具体的な支援を明記していただきたいです。東三河振興ビジョン「将来ビジョン」（2013年3月策定）には、「奥三河については、東栄病院やへき地診療所等の施設・設備整備（略）医療環境を充実（P12）」と記載されていましたが。しかしその目標に反して、今日までに東栄病院は廃止され、広大な面積（553k㎡）を擁する北設楽郡で唯一の救急告示病院・人工透析治療が中止され、さらに2022年には同じく唯一の入院ベッド19床の全廃が予定されます。 <p>新城市消防本部東栄分署によれば、北設楽郡内の救急搬送にかかる平均所用時間は、平成30年は平均1時間18分、令和2年には平均1時間27分へと悪化しています（「病院収容所要時間別救急搬送人員」より）。東栄医療センターの無床化、新城消防富山駐在所の廃止により、今後ますます搬送時間が延伸するおそれがあります。ぜひ、北設の住民が安心して暮らせるよう、具体的に救急搬送の長時間化への対策を明記してください。「誰もが真の豊かさを実感できる東三河を目指し、東三河はひとつ」というテーマは、東三河のどの自治体で暮らそうとも、住民の誰もが公共サービスの格差・差別なく安心して暮らせることを意味するものだと考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画案に「周産期医療の確保」を掲げたことは、たいへん重要です。東三河北部医療圏は、周産期母子医療センター（地域周産期母子医療センター含む）が存在しない唯一の医療圏であり、死産率は県内トップです。特に北設楽郡内の妊婦さんにとって、何かあれば豊橋市民病院や、高速道路で静岡県浜松市の聖隷浜松病院まで走らなければならない、大きな負担となっています。不安のために、予定日より大幅に早く入院する女性がいることが新聞でも報道されました。ぜひ、北部医療圏への周産期母子医療センター設置を目標に加え、愛知県に強く働きかけてください。 ・ 2021年8月の広域連合議会では、伊藤芳孝議員から南北医療圏域の統合への態度を問われましたが、明確な答弁はありませんでした。北部医療圏が南部に統合されれば、愛知県の医療政策へのいかなる目標もなくなってしまいます。医療過疎を不問にする統合議論に、明確に反対の意思を示してください。 	<p>現在、東三河南部医療圏と東三河北部医療圏の統合議論はございません。また、いただいたご意見は、関係機関と情報共有させていただきます。</p>